

観覧順路



- 休館日 12月31日 (1月1日は瑞鳳殿本殿のみ無料開館)
- 開館時間 2月1日～11月30日……9:00～16:50 (最終入館 16:30)
12月1日～1月31日……9:00～16:20 (最終入館 16:00)

■ 観覧料

	個人	団体20人以上 ※	団体50人以上 及び障害者
一般・大学生	570円	460円	360円
高校生	410円	310円	210円
小・中学生	210円	160円	110円

2020.4

※るーぶる仙台一日乗車券をお持ちの方は団体20人以上の料金を適用

【主な年間行事】

- 5月24日……初代藩主 伊達政宗公遠忌法要 (瑞鳳殿特別御開帳)
- 6月4日……三代藩主 伊達綱宗公遠忌法要 (善応殿特別御開帳)
- 7月12日……二代藩主 伊達忠宗公遠忌法要 (感仙殿特別御開帳)
- 8月6日～8日 瑞鳳殿七夕ナイト
- 10月中旬……瑞鳳殿 秋の特別御開帳
- 11月下旬……秋の紅葉ライトアップ
- 1月2日……新年拝礼式



仙台発祥 株式会社 伊達の牛たん本舗
伊達の牛たん本舗
お客様相談窓口 ☎ 0120-522-571
伊達の牛たん 検索



松島佐勘
松庵

お問い合わせ・ご予約は
Tel 022-354-3111
松島町手樽梅木1番地
<https://www.shoan-umine.com/>



伝承千年の宿
佐勘

お問い合わせ・ご予約は
Tel 022-398-2233
仙台市太白区秋保町湯元字薬師28
<https://www.hotel-sakan.com/>

秋保、松島、2つの佐勘。



お問い合わせ

公益財団法人 瑞鳳殿

〒980-0814 仙台市青葉区霊屋下23-2

TEL 022-262-6250 FAX 022-262-6251

ホームページ <https://www.zuihoden.com>

フェイスブック <https://ja-jp.facebook.com/zuihoden/>



① 涅槃門 (ねはんもん)

「涅槃」とは「煩惱」を取り払った悟りの境地となる状態を意味し、広くは「来世」という意味にもなります。

瑞鳳殿の涅槃門は樹齢数百年の青森檜葉を用いて焼失前と同様の豪華な飾り彫刻が施されています。

② 瑞鳳殿 (ずいほうでん)

伊達政宗公は1567(永禄10)年米沢城で生まれました。東南北部を中心に諸勢力を平定し、世に「独眼龍政宗」の異名を轟かせました。江戸時代になると、仙台藩62万石の藩祖として、産業・経済・文化の振興をはかりました。瑞鳳殿は1636(寛永13)年、70歳で生涯を閉じた政宗公の遺命により、その翌年、二代藩主伊達忠宗公によってここ経ヶ峯に造営された霊屋(墓所)です。桃山文化の遺風を伝える江戸時代初期の豪華絢爛な廟建築として、1931(昭和6)年、国宝に指定されましたが、1945(昭和20)年の戦災で惜しくも焼失しました。現在の建物は1979(昭和54)年に再建されたものです。2001(平成13)年には改修が行われ、柱には彫刻獅子頭を、屋根には竜頭瓦を復元し、極彩色も再現することで創建当時の姿が甦りました。



③ 資料館 (しりょうかん)

空襲で焼失した三藩主の霊屋が再建される際に行われた発掘調査では、完全な遺骨とともに、武具や文具など、多くの貴重な副葬品が発見されました。資料館では副葬品の一部や、政宗公を始めとする三藩主の復元容貌像を展示しています。また、「政宗公の偉業を紹介する映像(約15分)」や「瑞鳳殿の見所を紹介する映像(約8分)」も上映しています。

墓室より発掘された副葬品の紹介

※資料館では感仙殿・善応殿副葬品を展示しております

感仙殿副葬品



糸巻太刀



兜

瑞鳳殿副葬品 (仙台市博物館で保存管理)



金製ブローチ

善応殿副葬品



手箱とその中身



黒漆葛蒔絵箱

発掘された頭骨をもとに復元した三藩主の容貌像

初代 政宗公



二代 忠宗公



三代 綱宗公



※政宗公の復元像は令和3年に最先端の科学的調査と復元技法により制作されたものです。

④ 感仙殿 (かんせんでん)



二代藩主 伊達忠宗公(1599~1658)は政宗公の治世を引き継ぎ、法治体制の確立を進め、新田開発や治水、港湾の整備など産業・経済の振興をはかり領内の安定に尽力し、藩の基礎固めをなすとげました。忠宗公の霊屋である感仙殿は、瑞鳳殿と同様、華麗なもので、1931(昭和6)年に国宝に指定されましたが、1945(昭和20)年の戦災により焼失しました。戦後、瑞鳳殿に続いて1985(昭和60)年に再建されました。

三代藩主 伊達綱宗公(1640~1711)は幼い頃から芸術的な才能にたけていました。19歳から2年ほどの治世の後、故あって幕府から逼塞隠居を命じ

⑤ 善応殿 (ぜんのおうでん)



られましたが、その後の生涯は書画・詩絵などに天分を発揮し、優雅な余生を送ったといわれています。水墨画等は江戸期東北を代表する芸術作品として、今も高い評価を得ています。綱宗公の霊屋である善応殿は、1945(昭和20)年の戦災で焼失し、1985(昭和60)年に感仙殿と共に再建されました。

⑥ 妙雲界廟 (みょううんかいびょう)



⑦ 御子様御廟 (おこさまごびょう)



感仙殿の北側には東を正面に九代藩主 周宗公、南を正面に十一代藩主 齊義公夫妻の御廟のある妙雲界廟があります。また、参道手前・右の通路奥には、五代藩主 吉村公以後歴代藩主公子公女の墓域である御子様御廟があります。

参道と杉木立 (さんどうとすぎこだち)



石造りの階段は、戦争による焼失を免れた藩政時代からのものです。その数は、仙台藩の石高(62万石)を表したものと言われています。左右にそびえる杉の並木は古いもので樹齢380年余にもなります。